

平成 30 年 10 月 大泉図書館指定管理者連絡調整会議 議事要録

日時	平成 30 年 10 月 25 日（木） 13 時 10 分から 13 時 50 分まで
場所	光が丘図書館 第一会議室
出席者	<p>(1) 光が丘図書館（以下「光」） 管理係長、運営調整係長・係員（2）、事業統括係長、子供事業統括係長 光が丘図書館長は欠席</p> <p>(2) 大泉図書館指定管理者（株式会社図書館流通センター）（以下「大」） 大泉図書館長、同館業務従事者（2）、本社スタッフ（2）</p>
内容	<p>職員体制について</p> <p>（光）7 月に館長が参加した「第 5 回超高齢社会と図書館研究会」について （大）超高齢社会と切り離すことのできない認知症の方に対し、図書館としてどのようにアプローチしていくかという研究会に参加した。</p> <p>（光）8 月の TRC 本社研修「学校図書館総括支援チーフ研修」について （大）「第四次子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」、「学習指導要領改訂の方向性」等の講義を受講した。学校図書館を適切に支援するために必要な、国の基本方針、具体的方策の理解に役立てた。</p> <p>（光）9 月に貫井図書館で行われた「N-impro 研修」への参加について （大）練馬区地域文化部協働推進課の協力により、認知症への理解を深める「N-impro 研修」を株式会社図書館流通センターが受託している練馬区内の図書館 7 館合同で受講した。具体的な事例に対し、どういった対応をするかカードで答えを出し合う。正解は 1 つではなく、色々な人の意見を聞いて対応を模索していく。7 月の研修「地域高齢者を支えるコンビニエンスストア N-impro 体験と地域ネットワークづくり」と同じ内容である。</p> <p>（光）9 月に「図書館のためのブックフェア 2018 セミナー「回想サロン」思い出話で脳トレーニング」に参加するなど、認知症関連で多数の研修に参加しているが、今後の取組、事業等への展開は。 （大）どのようなサービス展開ができるか学んでいる段階である。回想法を取り入れた高齢者向けの事業ができないか考えている。</p> <p>（光）利用者からの暴力行為等を未然防止するための方策、研修について （大）基本的な接遇研修は実施している。大泉図書館の利用者は高齢者が多く、認知症などの発症が影響してトラブルに発展する事例もあると感じている。今年度は認知症の方への対応を学び、関係機関との連携を探っていく。</p> <p>一般事業について</p> <p>（光）地域との連携による事業 「白子川訪問記」について （大）平成 27 年度に地域コーナー展示で初めて白子川を取り上げ、10 月に「白子川源流まつり出張展示」を実施、平成 28 年 3 月からは白子川源流・水辺の会が毎月 1 回行っている「川活動（清掃や水質調査など）」への参加を始めた。10 月 28 日に、毎年 1 回開催される白子川源流まつりがあり、今年度も出張展示を行う。出張展示では、白子川や環境</p>

関連の資料展示、絵本の読み聞かせ、大泉図書館のチラシ配布などの広報を行う。また、今年度は白子川源流・水辺の会代表の方から提案をいただき、11月に大泉図書館で「白子川を空からも見てみよう！」という事業を実施する。白子川をドローンで撮影した映像をもとに、その特徴や歴史、そこに棲む生き物などについてご紹介いただく。

児童・青少年サービス事業について

(光) 7月実施の「みんなでつくろう！博物館」の講師依頼について

(大) 平成28年に第17回理科読シンポジウムに参加した際、講師の先生と名刺交換し、図書館での講演について打診した。講師は、絵本「せいめいのれきし 改訂版」、恐竜や古生物関係の図鑑や本の監修を多数され、メディアにも出ている著名な方である。

(光) 7月実施の「化石標本展示」について

(大) 「みんなでつくろう！博物館」の連携企画として、講師の所属する国立科学博物館標本資料センターから、恐竜の歯、植物の化石などの標本セットをお借りした。幅広い年齢層の方に好評を博し、5日間で220名の来場があった。

(光) 「練馬区立大泉図書館 図書館を使った調べる学習コンクール」の応募状況について

(大) 第1回目の昨年度は小学生の部16作品だったが、今年度は小学生の部21作品、中学生の部61作品、高校生の部1作品、合計83作品の応募があった。中学校の授業で図書館を使った調べる学習があり、1校からまとめて作品をお借りすることができた。

(光) 9月実施の「防災GO！～これであなたは防災マスター～」について

(大) 平成28年11月、平成29年6月に続き3回目の実施である。今回は、区民防災課防災学習センター所長に「子供のいる家庭の在宅避難」をテーマにした講和をしていただき、心のあかりを灯す会の方に当時2歳のお子さんと経験された「阪神・淡路大震災の被災体験談」をしていただいた。

(光) 「子供の読書活動推進」の保護者への啓発について

(大) 学校連絡協議会の議題にもなっている。家庭を巻き込んだ読書記録、中学生が小学生へお薦め本を紹介するなどの連携を学校も考えている。

その他

(光) 7月に実施した「携帯助聴器の設置」について

(大) 会話が聞きづらそうな高齢の利用者が増えてきているため、1階のカウンターに携帯助聴器を設置した。スタッフが直接利用をお勧めすることはしていない。興味を持たれた利用者からは、使用方法や購入先を聞かれる。

(光) 老眼鏡の窓口設置は普及しているが、助聴器の窓口設置は区内図書館では大泉図書館が初めてである。今後、貴社が受託している他の指定管理館にも設置するのか。

(大) 区内指定管理受託館4館で情報共有し、設置を進めていく。